大安二十四孝

序品

孝貞澤門二

特別
へ13
4200
1

序

そ後清くしてもめるものはぶりて天とふ
つもおりくしあ湯をたはんぐりく地とかち
陰湯ニひよわるといやせたおまつとの代く
あはさしあをけまてはくちちぐまくばりを
ぶりとまはまや二神ぶ世ちくまひ国ち遠を
乃御をを免言ゐ乃ちうてあまつさうか
ちを乃ふ御沸ぶ技御沸ぶ丸ちぐも法沸ぶく
ちちありうくまもしちも黄泉乃国とひ世
ちうふ天照大神と

十貳冊之内

宣方

58 2013

ちゝはゝの事を聞て思ひのそこをたづね先
てこゝもとめ母の乃をきゝてをきゝはけめ乃
代と成くは山を切ひらくゝるゝ者は第一の滝ゝを
起りく深河と流ふかゝしされ思の中
ゝ母を指とあゝ孫先父母乃恩と云くを先と
もとゝるをきゝを早出ゝを生しつけ畜生ゝ
恩とゝいさるべきさ父乃恩ハ須弥山母の恩を
大海よ強ゝ思ゝ須弥山母の恩を
ざるは父母の恩深なるべゝそゝ父母ハ
且者よ者ゝ者よ仕ゝ古

人乃伝ゝを書ゝ
国国位ゝ浄波ゝ乃ゝ生
ひていゝ服と聞ゝ父ゝ
多病と治ゝ生ゝ
那夫人乃ゝ百寺の
つてゝ他人と師
難ゝ苦行乃功と
三宝の福田聖乃
縁と祝ひゝ弥ゝ
切利天ゝ

むとて一切衆生に善をすすめ
乃ち菩提をなすもさきだてやすかれとの通り
してこの千二相八十種好生身の仏の
なるも中にも眉間白毫とかいをさとりと父母
孝行なるもあるは相也山おのおのもの光と敬お
りしませば十方世界よりは竹巻天下ハ六欲天龍
までを照らしたもうあるの人を
山に光ふ海ふゆへ善を勧めつつ先仏よ
成りあり。親鸞ハ師孝乃ゑ孝冠よ法海と
いてこの娑婆世界の父母の白骨と義く天竺

乃ち貴女ハかぐりふりて行よ一灯をそなへ
ありひハ一家と信よ仏ハ虔敬ふ
をあり。さ父よ孝せ一徳よりそなへ乃信よ
のかり給ハ郭巨ハ母と書ひて我子とちん
切ふ母とうハ親乃ちもも金の釜と掘り
やりて長ふ加也面影八父と折しうハ母こと
つとそ身と勢州婦人母と書しうば天竺ふり
て家と兄弟とかんて男と弟をけるは長者と石
ゑと芳ふり白龍ハ毛貴ハ男と新しく高ふハ新
鶯ハ孝と蓮にてふため世にさハまりあけ

世代書ものしたるよりて世わ
うりの尚侍西園寺の家奉年ふ治まりて後世まで
をの代なき世界の海を治ぶりかりてふ
うく船とうう人・若君のうこみりすかふかあまりて
絵巻をそ〳〵を書く拾ひとあつて百官万民
をたの〳〵とうう夕一味の西園寺家園
をとうりんがもそ〳〵かくうこと紙はを書きてまつ
ふ恨びとりひてこらふ彩あ〳〵はを書とおづつ
つる式若春りの江ぶざ〳〵はをくれりまたはるもを
又ふ〳〵春秋の山切なりつ〳〵はをりつ〳〵はをと

とるもぐく作りおちりにふる人〳〵の中をへかく物なる
さ中ゆり大あつ世書を見ふ絵とうとうと西京
される世ばかりて長る巻ふまりせてりつ
まりさ年世をりのびひつの書は法り書あ
はしるふとりせ左実や京中はりしさ左ま
及えびく〳〵ふ物伯者乃松の家紫とひろ乱れて
絵を格とすぐ〳〵ふりあ〳〵たぐ意紙乃ふ〳〵よ
海ぐふ巻苔はぐびとを水墨のあ〳〵毋書あつ
しるふ計地され先〳〵ぐとめぞ〳〵大海は浪の立
とんてとえんをやうそうそう又八粗云絵紙

とりて獄に繋ぎ拘へ捕へ、法の如く罪を科ふ。
とり物ハかゝる所作をもて、父母を養ふ。
かゝる人、まさに地獄に堕ちて、
ま[illegible]父母を養ふ。
[illegible]人、乃天乃ちよか
[illegible]の利生と、[illegible]
[illegible]を[illegible]ハ新[illegible]乃人のふとをあらむ
たちまちに[illegible]

序品之終

目録

第一　序品
第二　孝皇帝御宇事
第三　市守長者事
第四　業去来事
第五　同防閤伝事
第六　木村朝治事
第七　狭白事
第八　平栖子事

才九　作蔵うじとうまま
才十　源兵上人まま
才十一　壬生人金寿まま
才十二　高階経頼まま
才十三　樊田源宗女まま
才十四　山口秋道まま
才十五　三條子秀丸まま
才十六　清原宣元まま
才十七　山名玉丸まま

才十八　本情蔵第まま
才十九　源田姫まま
才二十　二宮光満まま
才九一　芦の旅雄まま
才九二　義原弁之まま
才九三　番能姫まま
才九四　福万長者まま

同孫之絵

孝宣の御事

いにしへ七帝の御事ありたりけれども佐々
ものし第五代と定め世をたもち給ひしの心
うをかくや御はしまさんとおぼしめしてもおぼしまうけ給ひ
を第一月日を数ひ父ハ孝りのはんこうまうけ給ひて
たりまいてよりのち父帝
流まし御ときこと御ぶ
世乃人をハ孝宣と号ふめなるゑ世乃はんを織のみ
ら百度万民とあらはれこぞ来ハ孝とぬぎ給ひ

日本七四五二

て民のもてゆるを憐と奏聞をあらせられ
給ひて民の苦をなくあるとき
とて発れ給ひ世の人奉感
感ハ国土安全にて
こゝと猪熊兄弟
で海まのかなで
あまひろまでなみ
ふまハ海まされ
給ひ
給ひ
給ひ

ゆるべきあるべきあるべき人ハ着物屏風が常都と
及びごとと成り門ろうとわさうとそんとわさうと
くそつあさ山ハ梅を天ゝ乃沖あげさそ
ト小付て出ろうり流かられたりまして古
乃ごハ湯あとさんハ乃ハ出たりまさだ
お祈なりやまとを沖命もとやあやくんん
さをあんハ月もまんとうるひ祈ふてうさがりを
くくくく

行ぎやうなる事のゆゑをしらずして勅願寺の人皇法
の法華経をあそばされしは叡山の大伽藍よりまつ
御供仕るべしと乃富ゑにて新大納言成親卿
使ひ奉りひてずゑつらとの人の名残とて世中
雲ゐ立て大法会をとゝのへ給ふ法ゑ
をびさ花をつ吳竹笛ぶく音楽ゆんぐ
ちゝ地獄ぐみ八歩成敗百民ゆゑ先を礼
つ見がらふれ供奉ひろふりをばぐでまこと礼拝をまゐ
うりよハ形ぐんをぐさこと形ゆく礼伽倍ハ大地ゆ勇と
をけぐをんぐさ踊澤して海とおぐ行くて大法会て

白ぬまてに初位こうやこにのがり給ひ屋ぐて寿命を
てはう〻参内やうれうしうば寿命ましくて
禁ようの法花の四講珍重ようの勅願にて
こうけのかうしに場所八百余町天竺〻寄さを給ふ
自古十禅寺中堂八王子ふ動るとこ〻ろあり仏閣法あり
七宮と云て荘厳し毎年奥し給ひてこそ仏法繁昌
ますかふ繁昌し八百宮の神もく〻感とまり
給ひ上人ゐ宮こ乃屋ゐ下八百民こまるとたよりひさう
し四代乃ちなり今南代まで中絶〻給ふ

孝昌之流